

宇宙エネルギーの超革命 1991年 廣済堂出版

深野一幸 (ふかのかずゆき)

東京工業大学応用物理学科卒。工学博士。

以前から、予言、靈魂、超能力、UFO、宇宙人などの超常現象に興味をもち、独自の研究をつづけ、これらは「宇宙のしくみ」という観点からすべて統一的に説明できることを発見した。

地球が今そのまま進むとノストラダムスらの予言している「世紀末大破局」は、宇宙のしくみから必ず起こるとして、『199X年地球大破局』を著した。地球大破局を避けるには、宇宙エネルギーを利用する社会を早く作ることだとして、科学技術者の立場から宇宙エネルギーと宇宙のしくみを説く。

●現代科学で説明できないことがたくさんある

現代科学では、プロローグで述べた無限エネルギー発生装置や永久電池の原理を説明できないだけでなく、その他にも説明できない問題がたくさんある。たとえば、次のようなことがらである。

◇引力のしくみを説明できない。

ニュートンが万有引力の法則を導いて、万有引力を発見したのは17世紀のことであるが、その後の科学は引力がどうして起こるかという理由を説明できていない。

◇物質の究極がわからない。

物質は原子から成り、原子は陽子と中性子と電子からできている。これらが物質の究極粒子と考えられた時代があったが、その後、中間子などの素粒子が100種類以上も見つかり、素粒子が究極粒子とはいえなくなった。現在は素粒子を構成する基本粒子としてクォークやレプトンが考えられている。しかし、物質の究極粒子はクォークやレプトンではない。クォークやレプトンを構成するさらに桁違いに小さい粒子が存在している。その超微粒子を検知できないために、現在の科学は、物質を構成する究極粒子が何であるかがわかつていない。

◇電磁気の本質がわかつていない。

現在は、エレクトロニクスの時代といわれるほど、電磁気学の応用面は発達している。電磁気はすべて解明されているように思われるかもしれないが、決してそうではない。電磁気の基本的な面はまだ十分にわかつていないのである。そもそも、磁気とは一体何なのか、電荷と磁気はどんな関係なのか、電流を流したときに周りに磁界ができるのは何故なのか、などの本質的なことが何も解説されていないのだ。

◇高温超電導を説明できない。

超電導という現象がある。これはある物質をマイナス270度という極低温まで冷やすと電気抵抗がゼロになるという現象である。これが最近、極低温でなく、常温に近い低温でも超電導現象を起こす物質が次々と発見され、一時超電導ブームが起

こったのはまだ最近のことである。このように、高温超電導物質はぞくぞくと発見されており、常温超電導物質の開発は時間の問題と思われるが、現代科学はこの高温超電導の現象をまったく説明できていないのである。

◇常温核融合を説明できない。

最近、フライシュマンとポンズ博士、およびジョーンズ博士の別々のグループが、常温で核融合が起こることを発見した。これは、現在の物理学では、常温では核融合は起らないとされていたのが、常温での重水の電気分解において、過剰なエネルギーと中性子の発生を確認し、常温で核融合反応が起こっていることを発見したものである。現在の科学は、この現象を説明することができない。

◇生体内原子転換を説明できない。

これは、常温核融合反応と関係あるが、人間や動物や植物の対内では、原子転換が普通の反応として起こっていることがすでに発見されている。常温の生体内で、なぜ原子核反応が起こるのか、現在の科学はこの現象も説明できない。

◇太陽エネルギーの発生機構を説明できない。

現在、太陽エネルギーは、水素がヘリウムになる熱核融合反応で発生していると考えられている。これを確かめるために、その反応で発生するニュートリノという素粒子を測定することが行われてきたが、結果は理論値の半分以下の値しか得られていない。すなわち、太陽エネルギーの発生機構は水素の熱核融合反応で発生するという現在の理論では、太陽エネルギーの発生機構を説明できていないのである。

◇さまざまな超能力や超常現象を説明できない。

世の中にはさまざまな超常現象がある。たとえば、念力によるスプーン曲げ、念写、テレパシー、幽体離脱、テレポテーション、空中浮揚、透視、予知、心霊治療などである。これらは、宇宙のしくみにおいては自然現象なのであるが、現在の科学ではまったく説明できないため超能力や超常現象として片づけられている。

◇死後の世界を解明できていない。

人間は死ぬとどうなるのかという問題を解明できていない。たとえば、靈魂が存在して生き続けるのかとか、生まれ変わりがあるのであるのかとか、靈界は存在するのかといった、いわゆる死後の世界のなぞを現代科学はまだ解明できていないのである。

このように現代科学はたくさんの重要な問題をまったく説明できないでいる。ということは、現代科学は絶対に正しい科学というわけではなく、大きな欠陥をかかえた科学だということになる。我々はここから出発しなければならない。

● マルチアークは宇宙エネルギーを放射する

マルチアークは、三相交流電流を3本以上の多電極に流し高温を作り出す技術である。装置の大きさと目的により異なるが、使用する電流は200アンペア以上、電圧は50ボルト程度である。

すると、アーク放電によりプラズマができ、4000度以上の高温が得られる。このとき、空気や電極の炭素がイオン化されると同時に、回転磁界も生じるため、これまでになっかたさまざまな反応が起こる。しかし、マルチアークで起こるさまざまな現象はこれだけでは説明できない。これを私は次のように考えている。

これまでの章で、火花放電は、真空の空間から宇宙エネルギーを取り出す一つの有力な方法であることを説明してきた。ニコラ・テスラの開発したテスラコイルにも、グレイの開発したEMAモーターにも火花放電が使われていた。これは火花放電が宇宙エネルギーを取り込んだり、宇宙エネルギーを放射している特別な部分になっていることを示している。

火花放電が宇宙エネルギーを取り込むということになると、さらに激しく火花放電をしているマルチアークにおいては宇宙エネルギーが強く出ていと思われる。そして、実際にマルチアークにおいては強烈な宇宙エネルギーが放射されているのである。

単極の火花放電である一般のアーク放電においても、かなりの宇宙エネルギーは放射される。しかし、マルチアークは、宇宙エネルギーの出方が桁違いに多いのである。これは、マルチアークが多極であるためだ。すなわち、3本の電極の電流の流れが交互に変わり絶えず変化するために、周りの空間の宇宙エネルギーと激しく共振し、宇宙エネルギーを大量に放射するのである。マルチアークが単極のアークに比べ、桁違いに大量に宇宙エネルギーを放射する秘密はこの点にある。

繰り返して述べるが、私が「マルチアーク」技術を紹介するのは、マルチアークが宇宙エネルギーを多量に取り込み放射する有力な手段であり、そこで起こる反応は宇宙エネルギーが関与しているため、その多くは、まったく新しいもので、これまでにない材料や技術開発が期待できるからである。

●マルチアークはどんな装置か

マルチアークの装置は、図のように3本(6本や12本でもよい)の炭素電極を少し離した状態にして、耐熱性の炉にセットした簡単なものである。3本の電極の場合、位相が120度異なる三相交流を流す。このように装置は非常に簡単である。

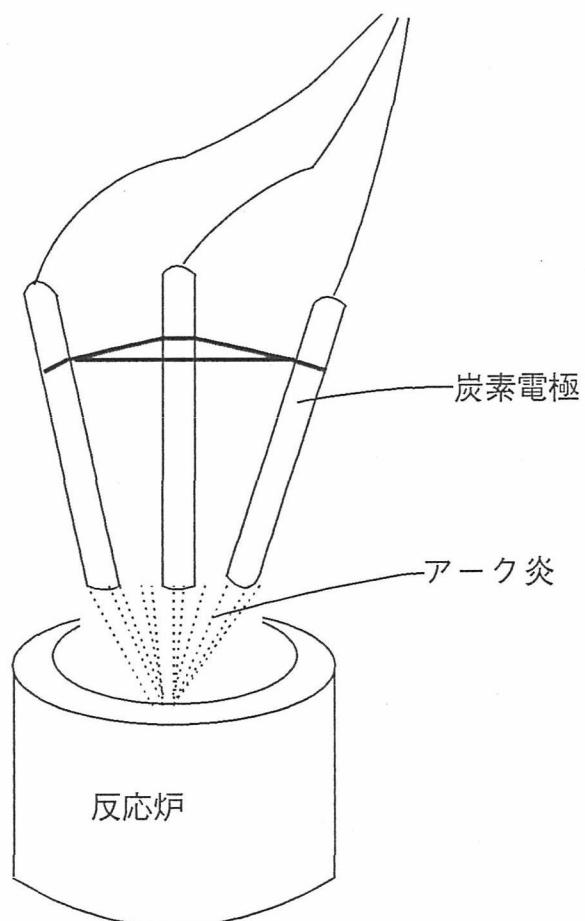
電気を通すと、3本の電極の先端近くに強いアークの炎が作られる。アーク炎は非常にまぶしく、色ガラスを通して見ないと目を傷める。アーク炎の温度は4000度以上、中心部では1万2000度以上に達しているという。

このアーク炎を利用して、物を反応させると、宇宙エネルギーが多量に放射されるため、これまでにないさまざまな反応が起こるのである。なお、この反応は、空気中でも、水中でも、真空中でも行なうことができる。

また、装置は、実験室規模の小さいものから、工業規模の大きなものまで自由に作ることができる。

マルチアーク概略図

三流交流電源へ



●用途の広いマルチアーク

さて、マルチアークではどんなことができるのだろうか。これまでにマルチアークを使っていろいろな実験を行なった結果、さまざまな分野でさまざまなことに利用できることがわかっている。たとえば、次のような分野への利用である。

●環境保全分野への適用

●新規材料の開発

●金属の直接精練

●水処理

●健康分野への利用

●農業分野への利用

なお、すでに述べたように、マルチアークからは、多量の宇宙エネルギーが放射されており、マルチアークで起こる不思議な反応は、宇宙エネルギーによって引き起こされたと考えられる。したがって、以下で述べるそれぞれの技術は、マルチアークであると同時に宇宙エネルギー利用技術なのである。

◇環境保全分野への適用

マルチアークの非常に有効な適用分野の一つは、環境保全分野である。

マルチアーク炎は、4000度以上の高温でしかも宇宙エネルギーに満ちているため、普通の熱処理とはかなり異なった結果になる。

現在、日本では年々、廃棄物いわゆるゴミが増えて、各自治体はその処理に頭を痛めている。燃えるゴミは、ゴミ焼却場で燃やされ、燃えないゴミは、埋めて廃却されている。しかし、日本は土地が狭く、用地難でその焼却場所に年々困ってきているのが各自治体の現状である。

このように、廃棄物処理問題は大きな社会問題の一つになっている。

さて、マルチアークは、これらの自治体の廃棄物処理問題を一挙に解決できる素晴らしい技術なのである。

すなわち、マルチアークで、燃えないゴミも含めて廃棄物を処理すると、体積が10分の1以下になってしまふとともに、得られるのは有用な資源として再利用ができる。ゴミが有用な資源になてしまうのである。

焼却灰をマルチアーク処理すると、体積は10分の1以下になると共に、焼却灰がセラミックスと金属の混合物になってしまふ。セラミックスと金属は簡単に分離でき、それぞれ資源として利用でき、廃棄する必要がない。

得られる金属は、焼却灰の中の金属だけが合金となって回収されたものである。セラミックスというのは、それ以外のものが一つの無機物質として得られたものである。これらは資源として再利用できる。

また、現在、問題になっているアスベストをマルチアークで溶融すると、耐熱性、断熱性の高い、無公害の硬いセラミックスが得られる。このセラミックスも再利用できる。

桜島の火山灰や砂漠の砂をマルチアークで溶融すると、誘電性のセラミックスになる。このセラミックスは宝石のように美しいため、美術工芸品の素材としても使

えることがわかっている。

また、使用済みの乾電池の場合は、水の中でマルチアーク処理することにより、水銀、カドミウム、銅などを別々に回収して再利用できる。

さらに、分解が難しいため処理に困っているPCBは、密閉器の中でマルチアーク処理することにより、分解、無毒化することができる。

ジュースの空き缶も処理すると小さな金属のかたまりになる。病院の使用済の注射針も簡単にマルチアーク処理できて、処理後は鉄のかたまりになってしまふ。

製鉄所から出るスラッジや油泥やヘドロもマルチアーク処理により、セラミックスなどの有用資源に変わってしまい再利用することができる。

以上のように、マルチアークは、廃棄処理においてきわめて有力な武器であることがおわかりいただけたと思う。

◇新規材料の開発

マルチアークは、新規材料の開発においても有力な武器である。

スチール製のジュースの空き缶をマルチアーク処理すると、鉄のかたまりになるが、これは単なる鉄のかたまりではない。鋼鉄のように固く、また鎔びない鉄になっているのである。

昔、ムーやアトランティス文明において、オリハルコンと呼ばれる鎔びない鉄があったと伝えられている。現在もインドの首都デリーの郊外の寺院の中庭に実在している。これは直径40センチメートル、長さ15メートルの円柱で、作られてから1500年以上経っているがまったく鎔びていないという。

鉄をマルチアークで処理するとこれと同じような鉄が得られるのである。

マルチアークでは、鉄とアルミニウムの合金を作ることができる。ジュースの鉄缶とアルミ缶と一緒に溶融すると、鉄とアルミニウムが完全に混じりあって、これまでにない性質の合金が得られる。

これまで、鉄とアルミニウムをマルチアークの温度と同じ程度の温度の炉で溶融しても、両者はほとんど混ざらず合金は得られなかった。しかし、マルチアークで処理すると鉄とアルミニウムの自由自在の混合比の合金が得られるのである。これまでに鉄とアルミニウム以外の組み合せの合金製造実験は行なわれていないので、確かなことは言えないが、おそらくかなり自由自在にいろいろな金属同士の合金が作れるのではあるまいか。

◇水処理への利用

マルチアークは水の中でも使えるのが特長で、水の中でマルチアークを反応させると、まず水が酸素と水素に分解し、簡単に酸素ガスと水素ガスが得られる。

水をマルチアークで処理すると、水のペーハーが変わりアルカリ化する。アルカリ化するだけでなく、殺菌力のある水になるため、浄水場における上水道水の処理においても有効である。

また、工場排水や汚濁河川の場合は、CODやBODの数値が低下し、水を浄化することができる。

さらに、ヘドロのたまつた海底や湖底でマルチアーク処理を行なうと、ヘドロを

そのまま水中で溶融し炭化セラミックス化できるとともに、マルチアークによる水の分解で発生した酸素と水素が水の対流を起こして、酸素に富んだ海や湖にできる。

したがって、マルチアークを積んだ公害処理船を作つてヘドロの海底や湖底を処理すれば、死んだ海底や湖底をよみがえらせることもできるのだ。

また、現在、海の原油汚染がたいへん問題になっているが、この流出油の処置もマルチアークの公害処理船で処理できる。実際、佐藤社長は、このようなことができる大きなマルチアークを積んだ公害処理船の建造を提唱しているのである。

◇健康分野への利用

マルチアークは、大量の宇宙エネルギーを放射することをすでに説明した。宇宙エネルギーを大量に放射しているとなると、マルチアークで処理して得られる物はすべて宇宙エネルギーに満ちた物になっていることになる。

実際に、マルチアーク処理して得られた物質は、強い宇宙エネルギーを放射していることが確認されている。

たとえば、マルチアークで処理した水は、宇宙エネルギーに満ちた水になっており、健康水あるいは病気に効く水として利用することができる。マルチアークで処理した水が、宇宙エネルギーに満ちた水ということになると、その用途は極めて広い。

また、いろいろな物をマルチアークで溶融処理するほとんどの場合、きれいなセラミックスが得られる。得られたセラミックスは光沢があり、美しいばかりでなく、強い宇宙エネルギーを放射している。宇宙エネルギーが人間の健康に非常によいことはすでに説明した。

現在、かなり一般的に売られている遠赤外線セラミックスは宇宙エネルギー放射商品であるが、このマルチアークで得られるセラミックスは、遠赤外線セラミックスの出す宇宙エネルギーよりもはるかに強いエネルギーを出している。したがって、マルチアークセラミックスは、宇宙エネルギーを利用する健康商品として今後大いに使われるようになるだろう。